

日本篆刻家協会会報

第23号 令和元年10月1日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp
http://www.n-tenkoku.jp

第三十五回 日本篆刻展開催

日本篆刻家協会主催「第三十五回日本篆刻展」が令和元年五月二十二日(水)から五月二十六日(日)までの五日間にわたって開催された。
日本篆刻家協会創設三十五周年の節目の年となる本年は、兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー本館の一・二階を借り切り大規模な記念展となった。

二階大展示室での第三十五回日本篆刻展本展は、公募作品五八八点(昨年比六六増)、会員作品一七二点(昨年比六六減)、委員作品一四七点(昨年比八六減)、常任議員作品八四四点(昨年同数)、参与作品四八八点(昨年比二二増)、理事以上役員作品(常任顧問・会長・理事長・副理事長・代表理事・名誉理事・常務理事・参事・理事)七四四点(昨年比二五増)の合計七三七七点(昨年比一九九減)が展示された。近年出品数の減少が目立っていたが、今年度は二・五%の減少に留まった。
併設の『第三回日本篆刻家協会学生展』は、小学生二三五点(一年生一五五、二



会場の兵庫県立美術館王子分館の外観

年生三二点、三年生六五五点、四年生四八八点、五年生三八八点、六年生三八八点)、中学生二二二点(一年生三七七点、二年生四四四点、三年生五〇点)、高校生五二一点、合計四一七七点の出品があった。
昨年で、小学生一六七七点減、中学生四〇〇点増、高校生七二点減、合計二三四点減と、七五・七パーセントの結果であった。点数は一昨年と同等となったがその質は年々充実しており、定着してきたようである。
また、三十五回記念を祝して中国篆刻芸術院顧問 西冷印社社長 韓天衡氏、中国篆刻芸術院院長 西冷印社理事 駱芃芃氏をはじめとし、中国著名作家より多数の協賛出品があった。



1階特別展「日本の印人」の展示

本館一階展示室では、特別展として会員所蔵による『日本の印人』が併設された。日本の近世以降の篆刻の流れを通覧する事をテーマに、一五五名の刻印・印影二九二点、書画二二二点のほか、印屏、刻字、画冊など合わせて約四五〇点を一堂に集め、まさに記念展に相応しい圧巻の展観となった。
協会創設三十五周年の記念として、特別展の解説を含んだ『日本の印人』と、会員所蔵の印譜を整理した『印譜目録』の二冊が出版された。(黒田玉洲)



2階大展示室・大勢の参観者で賑わう会場



家族で学生展コーナーを訪れる



庄巻の特別展観

授賞式・ 創立三十五周年 記念式典

五月二十五日(土)ANAクラウンプラザホテル神戸にて第三十五回展授賞式が開催された。

引き続き日本篆刻家協会創立三十五周年記念祝賀懇親会が田中修文常務理事の進行により、来賓二十四名を招き会員一八八名が参加し、スチールパン演奏の響く中、盛大に執り行われた。ここ神戸に開催地を移動してからの本協会の文化活動は高く評価されており、兵庫県井戸敏三知事にはご出席賜り祝辞を頂戴した。神戸市長(三宅正人文化交流課長代読)、兵庫県書作家協会深瀬裕之副理事長の祝辞の後、全日本人書法家協会晋嶋主席に乾杯の首領を取っていただいた。歓談中、兵庫県立美術館王子分館田中敬一館長よりスピーチをいただき、来年度より寄託賞として館長賞を出してもらうことになった。東西交流の成果もあり、各篆刻団体代表のスピーチで盛り上がり、来賓の皆様には三十五回展図録、三十五周年記念出版物をお持ち帰りいただいた。古溝幽畦常務理事より、祝電披露、上位入賞者の紹介があり、閉会となる。

(喜多芳邑)



厳粛に進められる授賞式で挨拶する井合理事長



閉式挨拶する山下常任顧問



受賞者代表の謝辞



祝辞を述べる白川兵庫県芸術文化課長



賞状を授与する中島副理事長



古河市教育委員会・篆刻美術館による「第十一回日本篆刻家協会役員展」が六月二十九日から八月十八日まで古河市篆刻美術館で開催されました。

第十一回日本篆刻家協会役員展

本年は令和元年に当り新元号の一回目となります。又全役員が長・短の差はありますが軸装になったのも初めてのことです。常任理事以上三十六点、参事・理事三十七点、参与五点、評議員五点計八十三点と梅舒適先生の作品一点が展示されました。いずれも書・画・篆刻共に見応えの有る作品ばかりで奥の深さを痛感させられます。

今年の総入館者は一三三三名と、篆刻に興味を持つ人が増えている様な気がします。

て期待しています。私も昨年からは篆刻を始めた人達を連れて見て来ました。彼女達は作品を見て感動し、自分達も書もやらないと、などと言っていました。古河の町は江戸時代の家敷や史料が多く残っており、周囲も整備されていてとても爽やかな場所です。篆刻を見た後、古河の史跡を散策しているると勉強になった一日でした。

常任顧問・会長・理事長をはじめとする本部の先生方はもちろんですが古河美術館館長さんをはじめとするスタッフの方々の協力で無事終了したことを感謝しております。(秋山捷華)



2階大展示室・いっぱい展示された作品

主な来賓(敬称略)

- ◎後援団体
 - 兵庫県知事 井戸敏三
 - 兵庫県企画民部県民生活局芸術文化課長 白川智子
 - 神戸市 市民参画推進局文化交流課長 三宅正人
 - 公益財団法人兵庫県芸術文化協会理事 山本亮三
 - 兵庫県立美術館 王子分館長 田中敬一
 - 神戸新聞社執行役員事業局長 太田貞夫
- ◎篆刻団体
 - 全日本篆刻連盟理事長 和中簡堂
 - 全日本篆刻連盟副理事長 岡野楠亨
 - 扶桑印社代表 遠藤強
 - 扶桑印社運営委員長 稲村龍谷
 - 全日本華人書法家協会主席・西冷印社社員 晋嶋
 - ◎関係団体
 - 兵庫県書作家協会副理事長 深瀬裕之

創立35周年記念式典で挨拶する尾崎会長



日本篆刻家協会創立35周年記念祝賀会
第35回 日本篆刻展出品者懇親会



和中全日本篆刻連盟理事長



祝辞を述べる井戸兵庫県知事



遠藤扶桑印社代表



神戸市長祝辞を代読する主幹神戸市文化交流課長



岡野全日本篆刻連盟副理事長



地元書道団体を代表して祝辞を述べる深瀬兵庫県書作家協会副理事長



稲村扶桑印社運営委員長



全国から参集の会員が熱心に受講

第十二回

中央研究会

令和に入つて初めての中央研究会が八月三日(土)～五日(月)の三日間、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催された。会員減が心配される中、昨年より一〇名ほど多い一四七名の参加を得た。

一日目

正午から受付開始。午後一時三〇分、本館三階の「舞子」にて喜多芳邑副理事長の司会で開会。井谷五雲理事長から分刻課題の説明がなされた。今回の分刻は唐宋八大家の一人である韓退之の『送孟東野序』(孟東野を送るの序)が割り当てられた。(これは五〇歳で進士に及第した孟東野が、四年後江南の小官に移される離別の際に韓退之が送った送序である。)今回の分刻は序文であり、割り当ても二文字～八文字と多種にわたった。



講義する井谷理事長

講義する真鍋副理事長



午後二時半から四時の間、真鍋井蛙副理事長より「河西笛洲」(かわにししてきしゅう)について講義があった。日本篆刻家協会の生みの親である梅舒適先生の師であり私達のルーツを教えてください

夜遅くまで啗々語々



黙々と課題制作

講義「河西笛洲」にかかわる参考品展示



公募展が興隆していく時代であり、印社結成と自身の作品展に力を注いだこと等を学ぶことができた。講義終了後、各自部屋に移動し課題制作に取りかかった。

講義に耳を傾ける参加者



大変いい機会となった。明治生れの笛洲がどのような活動をしたのか興味のあるところであった。笛洲が生まれたところは印判で有名で、文人気質の父の影響で、小学校時代より篆刻・書画・骨董に興味を持ったこと。三十五歳の時に中国に外遊し、呉昌碩を訪ねていること。書壇が形成され

一八時三〇分から本館二階「六甲」で

二日目の講師の野中穎僊先生をお迎えし、夕食懇親会が開かれ黒田玉洲代表理事の司会のもと、楽しく懇親を深めることができた。

夜は、別室にて印社代表者会議・企画委員会、また、初めての試みとして評議員会が開かれた。

二日目

今年の日本篆刻展が三十五回記念展ということで、「会員蔵 日本印人集」「会員蔵 印譜目録」を作成したので、午前の講義はそれに関連した内容が取り上げられた。

九時から一〇時半まで、本邦印人研究



「近代日本の印人たち」の講義



印社代表者会議



評議員会

スライドを使って講義する野中穎僊先生

家の野中穎僊先生より「近代日本の印人たち」についての講義があった。近代の印人十数名を「日本印人集」の図録と照らし合わせて詳しくわかりやすくお話いただいた。

十時半から十二時まで、山下方亭常任顧問より「印譜紹介」の講義があった。山下方亭常任顧問が所有しておられる印譜の中から、『今、鑑せたい印譜』として、手に入れられた経緯も交えてお話いただいた。また、その印譜を展観していただいた。初めて観る印譜が大半で貴重な機会を与



えていただいた。

午後一時半から五時まで、井谷五雲理事長、喜多芳邑・多田龍淵・平田蘭石各



山下講師持参の貴重な印譜を手に取って観る



講義する山下常任顧問

副理事長、伊藤雅夫・黒田玉洲・酒屋石荘・小朴圃・渡邊和琴各代表理事の九名の先生方に課題等の添削指導を行っていただいた。三時間半という長時間にわたる指導をお願いした。懇切丁寧な指導がなされ、参加者にとっては学ぶべきところが多かつ



舞子の部屋各所で企画委員による添削指導



講評する尾崎会長



(出田塘葎)

各自チェックアウト後、午前九時半「舞子」の間に集合し分刻課題を提出、尾崎蒼石会長から講評があった。恒例により、各種展覧会案内、理事長挨拶にて研究会の幕を閉じた。来年の第十三回中央研究会も多く

の参加者を期待したい。

たものと思われる。

夕食会は、松本雅至常務理事の司会で進められ、古溝幽畦常務理事からは各公募展成績発表があった。また、今回の日本篆刻展で会員推薦賞を受賞され、初めて中央研究会に参加された方々の感想もうかがうことができた。午後八時からは、東尾高岳理事の司会で例年同様オークションが行われ、楽しいひと時を過ごすことができた。

三日目

各自チェックアウト後、午前九時半「舞子」の間に集合し分刻課題を提出、尾崎蒼石会長から講評があった。恒例により、各種展覧会案内、理事長挨拶にて研究会の幕を閉じた。来年の第十三回中央研究会も多く



提出された分刻課題を前に講評



2019濰坊陳介祺金石文化周式典參加の訪中団



西冷印社門前で記念撮影する訪中団

二〇一九濰坊陳介祺金石文化周参加

令和元年九月二日、濰坊陳介祺金石文化周・国際千人千印大展開幕式に出席するため、日本篆刻家協会からも訪中団が結成され、顧問尾崎蒼石会長、団長井谷五雲理事長、副団長酒屋石荘代表理事、秘書長黒田玉洲代表理事をはじめとする計二十二人で開幕式に出席した。

八月二十九日(第二日)

午後一時五十分西空港より空路杭州へ。午後三時十五分杭州蕭山空港到着。空港で陳列のため先行していた井谷理事長と合流。バスで宿泊ホテルへ向かい夕食後、宿泊の杭州百瑞運河大酒店へ。

八月三十日(第二日)

日本篆刻家協会西冷印社名誉社員、社員十人展開幕式出席のため、西冷印社へ向かう。開幕式では西冷印社 党委 委員秦陶女史、西冷印社 党委 副書記王宏偉氏、日本篆刻家協会からは井谷五雲理事長(西冷印社名誉社員)、黄平齋常務理事(西冷印社社員)が挨拶し、尾崎蒼石会長(西冷印社名誉理事)と小朴圃代表理事(西冷印社名誉社員)に証書が贈呈された。

この展覧会は、日本篆刻家協会の西冷印社名誉理事の山下方亭常任顧問・尾崎蒼石会長、名誉社員の井谷五雲理事長・喜多芳邑副理事長・多田龍淵副理事長・中島春緑副理事長・平田蘭石副理事長・貞鍋井蛙副理事長・小朴圃代表理事、理事の黄平齋常務理事の二〇人によるもので、書法、印屏、篆刻と各先生方の個性に溢れた作品が呉石潜ゆかりの「遯齋」で展覧された。

昼食は西冷印社の隣にある「樓外樓」で陳さん夫妻のご招待を受けた。昼食後、西湖湖畔を散策し、遊覧船に乗る。白堤、蘇堤、雷峰塔

工房「雅陶精舎」で急須の絵付け体験



興味深かった。紫砂質館で楮、張夫妻と共に昼食。このご夫妻は井谷五雲理事長の古くからのお知り合いという事で、午後からの急須絵付け体験をさせていた

西湖湖面



などを眺め、湖面から杭州の美しさを味わった。西湖を楽しんだ後は、バスで河坊街へ移動。建徳堂、浣花齋、孔黎翔先生のギャラリーなどに

立ち寄り、買い物を楽しんだ。その後またバスで夕食会場へ。陳さん夫妻、孔黎翔先生、徐峰先生方が、堂に会い、それぞれ美酒を酌み交わし、交流を深めた夕食会となった。

八月三十一日(第三日)

早朝ホテルを後にしバスで宜興へ向かう。途中一時間程、湖州に立ち寄り湖筆を買い求める。十二時前、宜興着。楮建軍、張彩萍夫妻のご案内で陶磁博物館を観覧した。紫砂を始め、青瓷、精陶、均陶、美彩陶と様々な陶磁が展示され

日本篆刻家協会の西冷印社名誉社員、社員十人展開幕式における井谷理事長挨拶
尊敬する王宏偉先生、秦陶女史(各位先生、各位女史、上午好!)皆様、こんにちは!一言ご挨拶申し上げます。本日より日本篆刻家協会の西冷印社名誉社員、社員十人展が開催されます。悠久の歴史を誇りますここ杭州、この美しい西湖に浮かぶ景勝の地孤山、そして二〇〇年の老社、金石書画印字のメッカであります西冷印社の呉石潜ゆかりのこの遯齋で開催されます。ここから目を転じますと「還樸精廬」「歲青巖刻石」「俞曲園刻石」「呉石潜の刻石」その上部に「漢三老刻石」などまことに素晴らしい環境です。呉昌碩の『西冷印社記』には①西冷山水清寂、人多才藝②石勒鈍丁・悲齋諸先生像③社地与梅嶼、柏堂近、風景幽絶④堂舍花木、位置点綴、咸得其宜とあります。



巨大な石印材に刻して署名



乗、夕食は車内でお弁当を食べ、午後九時五十分濰坊北駅に着いた。バスで宿泊の麗景酒店へ。ホテルロビーでは二〇一九濰坊陳介祺金石文化周

橋の上から見た無錫運河



大作さんの「無錫旅情」を聴きながら、幾つもの橋をくぐり、雨で霞んだ街並みに心が落ち着いた。その後バスで新幹線の無錫東駅に向かう。午後五時二分の列車に

この日は朝からあいにくの雨。ホテルをゆつくり目に出発し、バスで無錫へ。午前十一時前錫惠公園着。寄暢園、恵山寺、天下第一泉などを散策し、無錫博物院を展覧し、昼食をとる。その後、無錫運河を船で遊覧した。尾形

だくこととなる。午後一時からご夫妻の工房雅陶精舎で急須の絵付け体験が始まった。三種類の急須が用意され、好みの形を選び、彫刻刀のような刀で文字や絵の筋を付けていく。やや柔らかめなので強く描くと突き抜けてしまうので、慎重に描かなければならない。初めてのことでなかなか上手く進まなかった。急須のほかに小さい湯呑み二つにも絵付けをし、約三時間で絵付け完成。焼き上がりが楽しみでもあり、心配でもある。その後、褚氏の案内で古玩城へ行き、買物を楽しむ。紫砂の器の店が三階建ての館に整然と並んでいた。夕食は再び紫砂寶館で、張夫妻と共に会食をし、交流を深めた。

九月一日(第四日)

まず、「日本当代篆刻名家頌揚陳介祺主題篆刻展」と題した日本篆刻家協会幹部の先生方三〇人の展覧会を鑑賞し、印屏、刻印が鮮烈に展覧され、とても勉強になった。次に「千人千印大展」の会場へ向かう。入り口付近では中国の先生方数名で側款拓の美演をされていて、大勢の人が興味深く見入っていた。この展

表彰された石留評議員(左4)、稲垣理事(左6)



証書を受けた井谷理事長(右2)、尾崎会長(右3)

の受付をしており、団員それぞれが巨大な石印材に刻して署名した。
九月二日(第五日)
二〇一九濰坊陳介祺金石文化周式典参加のため朝、バスで会場へ向かう。午前九時から文化周、千人千印大展の開幕式が華々しく行われた。中央政府代表、省・市の行政幹部、陳介祺研究会陳新会長の挨拶に始まり中国篆刻芸術院賈凡院長らの挨拶があった。引き続き、二〇一八、二〇一九の陳介祺賞の授賞式があり、日本篆刻家協会からは石留之然氏、稲垣華扇氏が受賞した。また、日本篆刻家協会幹部の先生方三〇人の刻印二〇〇方の寄贈に対し、尾崎蒼石会長と井谷五雲理事長が贈呈証書を受け取られた。続いて中国書法家協会蘇士澍主席が挨拶され開幕式は終了した。開幕式が終わると、各展覧会場へ足を運ぶ。

校庭いっばいに市内の小中学生が篆刻と伝統工芸のデモンストレーション



最終日。行事日程は昨日までで終了したので、青島空港への移動となる。朝八時にホテルを出発し、途中十二時に昼食休憩をし、十二時空港着。午後二時のフライトは、時間遅れて出発し、関西空港に午後六時四十分無事到着。杭州、濰坊での式典参加、宜興での工房体験、無錫観光と盛りだくさんの日程は思い出深い訪中となった。(畑間青露)

日本当代篆刻名家頌揚陳介祺主題篆刻展会場内



観会では日本篆刻家協会から応募した会員の作品が今年は勿論、昨年一年と廻り三フロアにわたり展示されていて、今年陳介祺賞を取られた稲垣華扇さん、石留之然さんの作品を始め、優秀賞の六人の先生方の作品が特に輝いていた。お昼頃、麗景酒店へ歩いて戻り昼食を取る。午後、第三中学校庭へ行き、子供達の篆刻実習を見学したり、「万印樓」や「十鐘山房」など訪館した。夕方ホテルに戻り、午後六時半、皆さんで最後の夕食を共にし、濰坊の地を名残惜しく、酒杯を交わした。

九月三日(第六日)
①二〇一六年秋、西冷印社創設四人の「四君子展」が浙江美術館で西冷印社と我が協会との併催で大々的に行なわれました。その折には同時に印学博物館で小朴圃・真鍋井蛙・井谷五雲の三人で「六齋会展」を行ないました。
②二〇一七年春、今度は日本の神戸市で同じく「四君子展」を開催しました。
③昨年の西冷印社創設二五周年では国際印社展に多くの我が協会の役員が参加しました。同時に一〇人は名誉社員・社員として出品参加しました。そして此度の二〇人展が開催される運びであります。おそらくは社員・名誉社員を二〇人擁する国や団体は他にないことだと思えます。この一〇人が更に足場を強固なものとして次代を担う人々、若き篆刻家に良い環境を与えて行きたいと考えます。西冷印社との益々の深い交流を期待したいと思っております。
ここに出席の西冷印社の先生、女史の全ての方々にそのことをお願いしたいと考えております。どうぞ宜しくお願いします。甚だ粗辞ですが、ご挨拶いたします。

2月課題 「如是観」

役員
(喜多方邑選)



克彦



和仁



容庸



碧風



桃園

- 名倉克彦 古野燕安
- 寺田和仁 南敬子
- 木村容庸 山村千秋
- 萬谷碧風 増田繁治
- 樋口桃園 渡邊尚石
- 花房浩佳 田原真山
- 永野草翠 松永六朗
- 石亀明峯 計五四人

金文・古鉢の調子の印が多く見受けられましたが、金文については「観を」に似せたことにより疎になり過ぎた印があり、古鉢調の印は字書をそのまま配字した感がありました。「如」を「行」で扱い、篆書に無理が生じた作もありました。

常任委員
(北室南苑選)



葭舟



芳翠



戲石



克衛



眞壽男

- 平中葭舟 安西幸恵
- 向畑芳翠 伏原準朗
- 岡崎戲石 岩田耕烟
- 西野克衛 青山正人
- 鈴木眞壽男 鈴木恵草
- 番定静山 鈴木恵草
- 小澤博石 中本管城
- 森静一 計五四人

如字の女偏には実に様々な表現がなされており、魅力的な印にする大きなポイントとなっています。ただ、如字の頭・肩の部位に誤字になっているものや、目立ち残念でした。金文より印案、小篆の作品に努力の跡が見られました。

委員
(草田翠苑選)



悦治



五岳



黄瑞



秋鹿



博子

- 兼子悦治 西岡美子
- 小松五岳 藤田勉
- 堤黄瑞 松村信夫
- 井上秋鹿 水中澄山
- 山杉博子 渡會俊正
- 中島幸園 井畑喜雨
- 小林邦夫 岡本浩二
- 高木啓志 計四二人

印稿に十分に時間をかけ納得のいく布字に仕上げることが大切。特に誤字のないよう慎重に。先人の作品等を参考にすることもいいと思います。押印で失敗しないように、最後まで気を抜かない事が重要です。

会員
(熊本夕生選)



幽篁



管玉



登志美



惠理子



真咲美

- 遠藤幽篁 松本光雄
- 中本管玉 池内龍泉
- 成瀬登志美 山中徹人
- 野田惠理子 向仲輝雄
- 佐野真咲美 寺野和子
- 栗永美舟 尾畑翠庵
- 上田玉雲 川野蘇辰
- 橋本陽一 計四三人

全作品「観を」二行目に一文字配した作品でした。また、佳印は白文印が多かったです。作品の狙いが定まらず、作品が多々、「漢印」「漸派」「昌原」「呉讓」等々の古典に仿つて取り組んでみられることをお勧め致します。

3月課題 「心善淵」

役員
(多田龍淵選)



章石



米子人



浩佳



仁美



草翠

- 古瀬草翠 立石見登
- 遠藤米子人 松田泰軒
- 花房浩佳 木村容庸
- 片畑仁美 古野燕安
- 永野草翠 寺野和子
- 丸山沙舟 吉野宗里
- 北畑謙之 山崎井泉
- 増田繁治 計五五人

今月は三文字の課題であつたため文字構成がうまくできている作品が多くみられました。一字の筆画の増減と空間の処理に留意してバランスをとることが必要だと思われ

常任委員
(黄平齋選)



葭舟



戲石



管城



眞壽男



雪峰

- 平中葭舟 田中紅珠
- 岡崎戲石 津田秀鳳
- 中本管城 長山墨石
- 鈴木眞壽男 川来玉峯
- 白幡雪峰 大塚秋露
- 永田乾石 奥島脚丘
- 小澤博石 堂守唯文
- 渡谷春壽 計五一人

三字印「心善淵」の常態で、右二左一の排列でよいはなく、通常で確かたやり易いであろう。但し、たまには通常と反する考え方で意外的な結果が得られるかもしれない。常任委員以上としては原稿で決まるはず。刻るのは基本である。

委員
(田中修文選)



英昭



啓志



五岳



勝山



幸園

- 小林英昭 兼子悦治
- 高木啓志 西岡美子
- 小松五岳 鳴川遠華
- 大野勝山 堤黄瑞
- 中島幸園 大塚秋露
- 松村信夫 井畑喜雨
- 矢持秀峰 水中澄山
- 小林邦夫 計四五人

毎回残念に思うのが鈐印状態です。新しい印泥を使用されたため印の線質が濃れているのや印泥のつきムラ、印案に捺す位置も配慮しないと作品評価を落とします。発送の際、印影に紙を当てることは常識と思ひ得ていただきたい

会員
(堤白遊選)



管玉



美舟



幽篁



哲幸



溪石

- 中本管玉 服部和彦
- 栗永美舟 高橋子路
- 遠藤幽篁 寺地春和子
- 吉田哲幸 浅井千賀子
- 佐川溪石 松本光雄
- 田邊進 玉井妙子
- 成瀬幸志美 尾畑翠庵
- 池内龍泉 計四三人

三文字の印文でどの文字を「子」に扱うか決まると思ひます。淵を長くする人が多かった様です。心を長く扱って手くまためておられるのがなかなかいいです。その中で朱・白でまとめられたのが面白い作品に仕上がっています。

4月課題 「恬筆倫紙」

役員 (中島春緑選)



役員



芳泉



青露



章石



仁美

刀のきれ線の強さ、全体的なバランスの表現が出来たものは、作品として素晴らしいが、難しいものです。変化のある字形をねらい過ぎ、奇字にちがったものや、必要以上に線を延ばしたり、刀の角度のせいか難に仕上がったものがあっても、布字に充分時間をかけて御精進を。

常任委員 (中村葉舟選)



常任委員



忠義



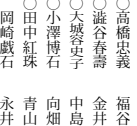
春壽



容史子



博石



紅珠

文字の一部分が反転している、一画足りない、突き出た、重なった画があるなどの作品がありました。布字が終った時点で鏡に印面を写して見る事で防げると思います。誤字にならない様に注意しましょう。

委員 (長谷川帰海選)



委員



秋鹿



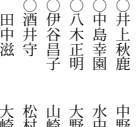
幸園



守



昌子



正明

文字に誤字が多く見受けられ、明に押されたものや、方、布字後すぐに刻さず、数日余裕をもって文字の確認、大小、傾き等印の目的を再確認してから刻せば勉強になると思います。印面に問題があるかもわかりませんが、鮮明な押印が少なくないです。

会員 (長谷川拓石選)



会員



哲幸



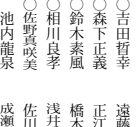
正義



素風



良孝



真咲美

選者は、印の出来不出来より、鮮明に押されたものや、誤字の無い印影を選びます。布字は正しいか、刻す前に辞典で再確認する。押印は、印面にむらなく印泥を付け美しい印影にする事。約三割が誤字等、約二割が印影の悪いものでした。

5月課題 「無罣礙」

役員 (平田蘭石選)



役員



燕安



千秋



六朗



宗雄

今回の課題「無罣礙」は三文字印という点もあり、パラッパが難しいなか個性のある作品が多くあり良いと思います。

常任委員 (古溝幽畦選)



常任委員



秀風



容史子



博石



春壽

全体的に真面な印風が多く好感を持つことができ、起筆や収筆にも細心の注意を払って、書線を意識した刀法に心がけて下さい。また、押印の際に印泥の付けすぎや不鮮明なものもありましたので、注意して下さい。

委員 (松本雅至選)



委員



浩二



悦治



敬花



英昭

全体として「礙」の処理に難航している感があります。特に「礙」の「正」部、単に「正」として起筆や収筆にも細心の注意を払って、書線を意識した刀法に心がけて下さい。また、押印の際に印泥の付けすぎや不鮮明なものも数点ありました。鈴印は重要です。慎重に。

会員 (御手洗宿山選)



会員



龍泉



登志美



管玉



翠庵

三字印は一字目か三字目を伸ばして二行に布字するものが一般的な構成法ですが、今回の課題はその二字とも縦画が多く、何れを伸ばしてもその文字でバランスが悪くならないことが大切です。今回は特にここに注意して審査しました。

6月課題 「真率」

役員 (真鍋井蛙選)



沙舟 燕安 謙之 尚石 和仁

常任委員 (池田泥異選)



尚 芳翠 華紅 景香 雪峰

委員 (伊佐治祥雲選)



幸園 溪白 叡花 浩二 黄瑞

会員 (石原豊玉選)



登志美 惠理子 杏芽 美舟 蘇晨

今回の課題の「率」には「迷」の字の篆体を使用した人も多く表現が多様であり、その中でも「率」の二文字には甲骨も存在するので、甲骨による表現も役員レベルともなるとやっとならぬと思ふ。会員の皆様の玉作を見ることが楽しみです。

写意篆刻という言葉は耳にしますが、時にはこういつた感興で印を刻かれるのもまた素晴らしいかもしれませぬ。

今回の課題は「真率」で朱文が七割、白文が三割くらいで出品されている。その中で一部布字構成で特異過ぎるものや余白等のアンバランスなものが目立っています。製作最後の押印作業が雑である、もっとならぬ、丁寧に押したいものです。

「真率」まじめで飾り気がないこと、まさに小篆印篆等、飾りがなく作品が多く出品されていました。金文、古文等共に「率」の布字校正に苦労されているので、田字格、日字格、界線等応用する方法も一考……

7月課題 「息心静気」

役員 (伊藤雅夫選)



弘碩 章石 碧嵐 容庸 和仁

常任委員 (出田塘葭選)



忠義 喜久 惠草 秀敏 華紅

委員 (大村雪陵選)



五岳 啓志 信夫 黎秀 悦治

会員 (奥田晨生選)



美舟 哲幸 正樹 龍泉 幽篁

この印文には配字を回文にされた方が四点あり、また文字としては極めて奇異な篆体を使った印が数点ありました。いずれも平凡さから脱しようとする工夫されたことと解しますが、ここでは通常の配字が普通に通じる事が好ましいと感じました。

今回は「静」字に誤字が多く、その地点をスタートラインに立てないことになり、また「心」も誤字が多いため、字書を慎重にみたり印篆で異なる字形を選択したり工夫してある作が数多くありました。創意に満ち熱意あふれる作が多数あり、意欲の高さが感じ取れる事が出来ました。

今回の課題は「息」の下部「心」と二文字目の「心」が連続しており、回文になり、白の美しさが損なわれ、せつなくの作品が残念なところになってしまいました。付けすぎも含めて、押印には細心の注意を払いたいと思ふ。

時々印泥の付きが悪い作品に出会います。印泥がしっかりと付いていないと朱白の美しさが損なわれ、せつなくの作品が残念なところになってしまいました。付けすぎも含めて、押印には細心の注意を払いたいと思ふ。

展覧会成績

第七十二回日本書芸院展

【二科審査会員の部】
史邑賞

出田塘葭 田中修文

【二科審査会員の部】
大賞

北田成磊 畑間青露 山本寿法

【無鑑査の部】

特別賞

金井榴華 戸出九廬 中島重陽

平中葭舟 水中澄山 三好和生

安井芳泉 山本龍石 吉田百華

準特別賞

池谷宝樹 石川無外 下倉遙水

中井榮子 中川典子 中本管城

第六十四回全関西美術展

【無鑑査の部】

日本書芸院大賞

滑田寒鴉

【公募の部】

全関西美術展賞第三席

植田杏華

全関西美術展賞佳作

寺田瀟雲

日本書芸院賞

三好和生 岸村爽風 堤白遊

荒川春翠

第三十六回読売書法展

【理事の部】

準大賞 黒田玉洲

【幹事の部】

新聞社賞 丹下青風

【評議員】

奨励賞 嵯峨洛山 戸出九廬

【公募の部】

特選

古瀬章石 松本弘碩 村田祥鳳

秀逸

青木雄山 石川無外 伊藤錦汀

井野大輔 奥島極浦 松田泰軒

中川典子 武田黎秀 藤本蘇西

坂東香璋 正和杏葉 吉原愛璃

浦岡香之 中野聡

第36回読売書法展 (2019)

準大賞作品



絶岸頽峰
黒田玉洲

青銚忘詠(十九)

小朴圃

「木居士」

先日印譜を見ていると、この印いいなああと急に目に入ってきた。普段、いかに何気なしに見過ぎていたのかの証左とも感じているが、それはともかくとして、掲出の印、齊白石五十八才刻の「木居士」である。款に曰く「此三字五刻五画、始得成章法、非絶世心手、不能知此中艱苦。尋常人見之、必以余言自誇也。庚申四月二十六日記。時家山兵亂、不能不憂。白石老人又及。」

士字を居士より僅かに上げて、いることに目が行き、絶妙だなあと、木字が大きく逆に居字が小さくなっていることに驚かされる。その木字は大きく左に伸ばして土の上部の広い留紅の広過ぎるのを防いでいる。もっと深く観察すると左右の線の方向

と太さが微妙に違うことに気付いた。左右対称にした時の平板さを思うと、その効果は言う迄もない。居字は何故に繁画なのに小さくしてあるのか、普通ならば木を小さくして居を大きく配するところだが、白石はその普通より、意外性を選んだということか。

ところで、この印、五回目にしてやっとできた款にある。ではその四回の印稿はどうであったかを考えてみることは、章法の妙を修得する上で充分有効である。四種と言わず、十種位考えてみたいものだ。

尚、参考までに中國篆刻叢刊にもう一顆、無款ながら「木居士」がある。



齊白石刻



参考

京都国立博物館で開催された(平成三十一年二月)の齊白石展の出品印を紹介・解説する。ただし、執刀圖等については『中国印人傳彙編』(馬國權)、『中国篆刻行叢刊』(小林斗盦編 云社)を参考にした。

白石が印を刻する時の刀の持ち方は、親指と人差し指、中指でしっかりと刀桿(かん) (軸)を持ち、中指は下にし、薬指と小指は印の右側へリにあてて支え、刀を手前から向こう側へ突いてほる。白石の用刀の方向は僅か二つだけである。白文の印を刻するときは、横画は字を書くのと同じように左から右へ縦画も字を書くのと同じように上から下へ刻るのである。(馬國權)

ここで京博出品の「儉活沈訥」を見てみることにする。「活」「訥」二字が比較的分かり易いのではないだろうか。「活」の「厶」部横画は下辺が直で上辺が剥落(はくらく)している。縦画は…と考えた時「訥」字「讠」部を見れば下方から上方に連刀されているように思う。「活」字サンズイについても同じである。

(あくまで齊白石執刀圖の方法で刻すとして)白石の刀法は片刃の印刀を使用し、圖の如く突き刀であるときされるので印面写真に矢

齊白石執刀圖



印を入れてみた。この方向で連刀しないと独特の剥落は生じないと思う。

また、馬氏は先に述べたように「彼の用刀の方向は僅か二つだけである。…」とするが「活」字※部を見ていただきたい。これは、上下、二回以上の刀が入っていることが今回印面を見ても明白である。白石もいろいろな刀法を用いて刻したのである。馬氏が言うように縦画を筆順通りに刻すすれば片刃の刀を握刀、そして引き

刀で刻せば「儉活沈訥」の印影が得られるように思う。もしくは片刃の印刀が現在我々が使用している物と少々異なるかもしれない。今回、白石の使用印刀の展示は無かったが、読者の皆さんで知る人があれば是非ご教示願いたいと思う。最後にこの印の「儉」字の篆は普通「儉」に作るのだが、そのまま「儉」を篆にした白石の考えを想像して何やら楽しくなってきた。後日、白石の「字法」についても書いてみたいと思う。

月例作品募集(2020年)

	課 題	出 典	意 味
1月	陵 霄	淮南子	空高く飛ぶ。志気が高いこと。
2月	桃 始 華	礼 記	仲春、桃の花が咲き始めること。
3月	心 曠 神 怡	范仲淹	心が広々として楽しみ和むさま。
4月	先 否 後 喜	易 経	苦勞が実を結ぶこと。
5月	換 鵝	晋 書	王羲之が道德経を書き鵞鳥と交換した故事。 書物を請い求めること。
6月	清 風 颯 至	晋 書	清らかな風がさつと吹く。
7月	四 海 兄 弟	論 語	世界中の人々が兄弟のように仲良くなること。
8月	行 必 果	論 語	実行すれば必ず果敢にやり遂げる。
9月	舉 杯 邀 明 月	李 白	酒杯を挙げて明月を招く。自然を友として酒を飲むこと。
10月	從 心	論 語	思いのままにふるまう。
11月	觀 自 在	玄 奘	迷いがなく、観ずるところが自由なこと。
12月	辛 丑		令和3年(2021)の干支。

応募要項

- ①会員CDを必ずご記入ください。未記入の場合は審査対象外となります。
- ②印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋(篆社印箋も可)
- ③応募は各月1人1点、締め切りは各月末日(消印有効)

送 付 先

〒563-0032大阪府池田市石橋2丁目2-10牧野ビル203 日本篆刻家協会 「__月課題」係

お問い合わせ 協会事務所 TEL 072-760-3852

第三十四回随風會書法篆刻展



四月十九日(二十一日)までの三日間みやこめぐりに開催しました。長沙岳麓印社、安吉昌碩印社、杭州金石全形拓非遺保護發展中心、杭州黄賓虹學術研究会、二十日には三十名が訪日、開幕式と歓迎会をしました。青銅器の全形拓の採拓の不思議さには皆、首をかきあげるばかり。幼少時に両腕を欠損した篆刻家、孔黎翔氏の緻密な印は見る人に感銘を与えました。

特別陳列として尊彝閣蔵「古銅印譜」青銅器を並べました。随風會会員は篆書と篆刻を一体化した全紙、半切軸作品「陶淵明「桃花源記」を分刻しました。会報「龍文」誌上展秀作印集の展示、福島震災孤児支援の連珠印販売は完売、売上金は送金しました。

三年待った京都市美術館は来春三月京都市京セラ美術館としてリニューアルオープンされ、四月には借用が決まっています。
(中村葉舟)

第八回稲香印社展

七月二十三日から二十八日まで、名古屋市民ギャラリー栄にて第八回展を開催致しました。

社中展ということで会員十名が自由に製作した篆刻、書作品十九点を展示。机上には分刻、曹操詩「短歌行」、陶印と印影七十点、折帖の篆刻「正信偈」を陳列しました。又、今回は各自の想いで選んだ語句の小印に一言添えた小額の作品を発表しましたが、それぞれ個性的な仕上がりがお客様にも楽しんで頂けたようで大変好評でした。

猛暑の中で始まり、後半には台風の影響もありましたが、五五〇名の方に御来場頂き感



謝しております。次回も楽しみに来て頂けるよう、又より向上した作品を観て頂けるよう一層の研鑽をつまなければと思っています。
(横井青蓮)

第二十八回越思篆会篆刻作品展

八月十七日(土)から十八日(日)まで、第三十八回越思篆会篆刻作品展及び、第三十三回富山市民大学篆刻同好会作品展の合同展を、富山県民会館にて開催致しました。

出品会員は毎年、拓本や水墨画・版画などを添えた作品を制作し、初めて見る方にも親しんでもらえる様、工夫を施す作品に取り組み展示しています。今年は五月に改元号があっ

た年にちなみ、「令和」や「万葉集」の題材が多く見受けられました。

また特別展示として、梅舒適先生の「かな・お手本帳」の「萬葉集」が展示され観覧者の関心を集めていました。(大村雪陵)



第三十八回六轡会篆刻作品展

八月二十一日から二十五日まで京都文化博物館において開催された。篆刻は勿論、書画や作品構成、内容に至るまでその全てに刺激がある稀有な展覧会である。

井谷先生は折帖と軸八点。五雲刻画閨秀八姿」と題された作品群は篆刻書画が一体となつて生み出された豊かな美に感服した。

眞鍋先生は折帖と軸十一点、磚硯や漢碑の拓に印や跋を書き込んだ作品をはじめ、印象



的な「鶴」を素材とした作品など強く感化を受ける。

小先生は卷子と額九点。九点共に同じ箋紙であるにも関わらず印を含めた紙面構成は千変万化、特に月を眺めている詠懐詩の空間構成には無駄がなくて心地がよい。

それぞれの鋭い感性から生み出された作品にはそれぞれ確固たる世界観がある。その世界をどこまで深く理解できるかは我々鑑賞者にかかっており、その意味で怖い展覧会だと言える。(石崎魯行)

第四回有磯篆会篆刻作品展

第四回展を九月二十七日(金)から二十九日(日)までの三日間、高岡市美術館市民ギャラリーにおいて開催しました。今年は、「詠道



上松」を会員全員で分刻し短冊にした物、高岡地区会員は万葉集「梅花の歌」の序文を、富山地区会員は各自の「座右の銘」等を小額作品とし、その他自由作品等を二〇〇点余り展示。

篆刻の普及を図りたいと来館者で希望される方には体験教室も実施し、一人でも多くの人に興味を持ってもらえるように願っている。来館者は二〇〇名余りであった。(宇崎崎碧峯)

第三十四回畦石舎作品展

十月五・六日、京都岡崎・日図デザイン博物館において畦石舎作品展を開催しました。両日とも晴天に恵まれ、大変多くの方々に足を運んで頂きました。紙面をお借りして一言御礼申し上げます。今回は程風子遺作品を特別展観しました。昨年三月の訪中の際、一軒のストール屋で偶然作品に出会って以来、我々会員に多大な影響を与えてくださった程先生。その影響は、北田成磊兄の百數十顆に及ぶ臨刻を筆頭に多くの会員作品に表れていました。今年三月の程先生との交流に参加叶わなかった小生にとって、特別展観に並々ならぬ思いを寄せる諸先輩方のその姿・その作品は遠い存在に感じてなりませんでした。今はもう遺された作品から程先生の面影を感じることも出来ませんが、今回その貴重な機会を設けることが出来たことを誇りに思います。

(河野无喬)



第二十二回齊平展



十月五・六日、大阪産業創造館にて開催。出品者は一〇二名でした。テーマ展示「福字印は、創意工夫とバラエティ豊かな作品群に驚きの声も聞こえてきました。また、併催展示は、会員蔵の日本印人作品(明治)を展観し好評でした。

本展は、篆刻を中心とした作品に書画等を交え、各々の作品の中に思いを込めて制作したものの展示でした。若者も高齢者も齊しく、和気あいあいと、楽しい展覧会となりました。

ご高覧くださった多くの方に感謝と御礼を申し上げます。(古野燕安)

展覧会案内

- ▼不華篆会(酒屋石荘)
デザインとして見る篆刻の展開
不華篆会習作展XⅧ
「合」字をデザインして生活の中に書・篆刻
会期 一月二日～四日
場所 伊丹市立工芸センター
二月三日～五日に兵庫県立丹波の森公苑で巡回展
- ▼篆誦社(古溝幽畦)
第一二回篆誦社游藝展
会期 一月八日～一〇日
場所 原田の森ギャラリー
- ▼四媛会(渡邊和琴・奥田晨生・坂本隣華・出田塘度)
書・篆刻 四媛展
会期 一月一〇日～一二日
場所 兵庫県民アートギャラリー
- ▼娛輝文会(井谷五雲)
第一三回娛輝文会展
会期 一月一三日～一五日
場所 兵庫県民会館
- ▼蒼文篆会(尾崎蒼石)
第一八回蒼文篆会展
会期 二月二〇日～二二日
場所 大阪産業創造館
- ▼雙青会(関踏青・畑間青露)
雙青会展
会期 四月二四日～二六日
場所 大阪・翰林堂ギャラリー
- ▼一隅會展
一隅會展
会期 一月三一日～二月二日
会場 アートホール神戸
- ▼伍葉展
伍葉展
会期 一月三一日～二月二日
会場 神戸・みなせ画廊

報告

- ▼島根篆刻展
併催 島根篆刻会のあゆみ展
会期 七月一九日～二二日
場所 中国電力ふれあいホール

協会行事

- 東西印人交流会
二月二四日
東京 新井光風先生講演・懇親会
- 第三十五回展審査会
三月二四日
兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)
- 第三十五回日本篆刻展
五月二二日～二六日
兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)
特別展観「日本の印人」
- 第三十五回日本篆刻展授賞式
五月二五日
ANAクラウンプラザホテル神戸
- 第十一回日本篆刻家協会役員展
六月二九日～八月一八日
古河篆刻美術館
- 第十二回中央研究会
八月三日～五日
舞子ヒラ神戸
- 海外交流
西冷印社名誉社員、社員十人展
八月三〇日～九月八日
中国 西冷印社邀鑑
- 日本当代篆刻名家頌揚陳介祺主題篆刻展
九月七日～二日
中国 山東省濰坊十笏園

予定

- 常務理事会
二月九日
大阪 錦城閣
- 二〇二〇年度
日本篆刻家協会理事会、
総会ならびに新年会
二〇二〇年一月二日
オーケラクトシテイホテル浜松
- 海外交流
第一回国際漢字篆刻芸術交流展篆刻書
法展覧
三月一八日～二五日
台湾 台北市
- 東西印人交流会
三月二九日
舞子ヒラ神戸
- 第三十六回日本篆刻展審査会
三月二二日
兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)
- 第三十六回日本篆刻展
五月一〇日～二四日
兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)
- 第四回日本篆刻家協会学生展
五月二三日
ANAクラウンプラザホテル神戸
- 第三十六回日本篆刻展授賞式
五月二七日～八月二七日
古河篆刻美術館
- 第十二回日本篆刻家協会役員展
八月一日～三日
舞子ヒラ神戸
- 第十三回中央研究会

編集後記

☆本年五月一日、「平成」から「令和」に改元され、令和になって初の会報第二十三号をお届けします。

☆新しい時代の幕開けとなりましたが、引き続き人口減少や少子高齢社会の進行、不透明な国際情勢など課題は山積しています。令和は英語で「ビューティフル・ハーモニー」(美しい調和)と訳されています。令和が本当に美しい調和を表現する時代になるかどうか…。私たちにも、未来社会をつくっていくという気概をもち、その第一歩を踏み出すことが求められています。

☆梅舒適先生の創設された日本篆刻家協会も、三十五周年の節目を迎えました。ささやかな祝賀式典に本文記事のとおり大勢のご来賓に出席いただきました。多くのご支援と連携を強く感じ、篆刻の周知向上が図られるよう邁進することを改めて確認したところで。

☆本号から「月例課題」応募結果発表のページがリニューアルされました。平素の習作にさらに活用されるよう期待します。(S)

編集・会報部

酒屋石荘 木村容康
戸出九廬 畑間青露

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。
FAX 072-760-3853
MAIL info@n-tenkoku.jp